石油・天然ガス土地法」を制定して各種の奨励措置を実施した。これら一連の税制優遇措置によって、ボーフォート海＝マッケンジー・デルタの探査に投入された資金は、約十億ドルにのぼるといわれている。

人工島から海底を掘る

一九七〇年に、デルタ地帯トゥクトヤクトゥック村の近く、アトキンソン・ポイントで試掘を続けていたインペリアル・オイル社が、油層に遭遇した。ほかにもいくつかの発見が続き、これを境にボーフォート海開発は新たな段階に入った。

すなわち開発者の目が陸地から海へ注がれるようになったのである。インペリアル・オイル社はやがて最も有望な地層の三分の二までがボーフォート海の底にあると確信するようになる。

同社の幹部はオタワへ飛んで、ボーフォート海海底の掘削許可を申請した。七二年、カナダ政府インディアン・北方省は、「北極海汚染防止法」を適用した上で、人工島技術による海底掘削を認めた。

こうしてカナダ史上初めて、油井掘削リグが北極の海に〝進水〟することになった。問題はいかにして掘削するか、である。掘削船方式にするか、それとも掘削リグをアイス・プラットフォーム（海上構造物）あるいは人工島に掘え付ける方法をとるか。インペリアル社は陸地に近い浅水域に人工島を建設する方法を選んだ。

人工島の建設自体は決して珍しいことではないが、油井掘削用としてはこれが世界で最初である。

一九七二年、第一号人工島「インマーク」上で掘削リグの据え付けが始まり、このリグを使って翌七三年九月一七日、ボーフォート海初の試掘井が掘削作業に入った。

さらにその翌年の春、インペリアル社は別の人工島アドゴF―28で作業開始、掘削深度二千百メートルの地点でついに油・ガス徴にぶつかった。ボーフォート海はようやくその内に秘めた炭化水素を少しずつ放出しだしたのである。

ボーフォート海＝デルタ地域では、陸上、沖合を含めて、現在までにざっと百六十五か所の井戸が掘られ、そのうちのいくつかで油・ガス徴が得られた。

これらの試掘井の中で生産井になったものは一本もない。いずれも油種や埋蔵量等の調査のための試掘井である。現在、これらは放棄あるいは一時封鎖された状態にあり、今後の技術の発展と開発方針の進展によって、晴れて市場に登場できる日を静かに待っている所である。

ボーフォート海に築かれた人工島

掘削船の活躍

一九七六年、ボーフォート海の夏。長い冬の後に訪れた束の間の夏の柔らかい風が、びっしりと岸に張りついていた氷をはがし、追い払う。きらめく水面が現

石油開発のリスク

石油や天然ガスを掘り当てるには、当然膨大な費用がかかるし、当りはずれも多い。

一本の試掘井――すなわち未知の油層やガス層を見つけるための井戸――を掘るのに、通常の場合、ざっと五万ドル（九百万円）から五千万ドル（九十億ドル）はかかる。それでも、石油や天然ガスがでる確率は、十分の一ぐらいに過ぎない。商業ベースに乗るほどの埋蔵量が見つかる率は、さらに低い。

カナダ北極のボーフォート海一帯では、これまで十年間も探鉱が続けられ、何十億ドルという金がつぎ込まれた。しかし、この地域からは、まだ一滴の石油も市場にでていない。

ただし、油層はボーフォート海で一か所（一九七九年）、マッケンジー・デルタで二か所、北極全体では十二か所で発見されている。

天然ガス層の発見はもっと多く、ボーフォート海およびマッケンジー・デルタ一帯で八か所、北極海諸島でさらに八か所見つかっている。

ボーフォート海からマッケンジー・デルタにかけての天然ガス埋蔵量は約一兆六千キロリットル、石油埋蔵量は三百億ないし四百億バレルと推定されており、探鉱がさらに活発化するのは間違いない。

問題は、北極で採掘された石油や天然ガスを、どうやって南の市場へ運ぶかである。ブリティッシュ・コロンビア州のバージャー判事を委員長とするいわゆるバージャー委員会は、一九七四年から七七年にかけて、マッケンジー・デルタから南へ天然ガスを輸送するパイプラインを建設した場合の社会的、経済的、生態的影響について詳細に検討、その結果、十年間の建設延期